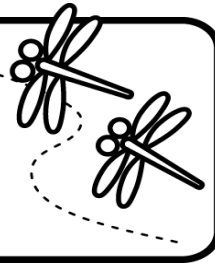


青木村子どもはつらつネットワーク通信

令和7年度 第238号 9月1日
青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行



今月号は、「長泉サマーキャンプ」の様子と、青木村出身のバレエダンサー下形亮人さんが7月に帰省されたので、色々とお話しをお聞きしました。その様子をお伝えします。



長泉サマーキャンプ



教育委員会事務局 森 航輝

2025年8月5日（火）から6日（水）の2日間、姉妹都市である静岡県長泉町へ長泉サマーキャンプの随行をしてきました。今年は青木小学校5・6年生の希望者19名、信州大学教育学部の学生10名でのキャンプになりました。初めての同行ということで不安な気持ちでいっぱいでしたが、子どもたちのワクワクとした楽しそうな顔を見て自分も一緒に楽しむ気持ちでいようと余裕が出てきました。

車内では大学生たちが準備してくれた楽しいレクリエーションで大盛り上がり。イントロドンや、%あてゲームなどで子どもたちの緊張が解れ、最初は恥ずかしがっていた子ども積極的に参加するように。大学生たちの優しい声かけのおかげで、あっという間に子ども同士の距離も縮まりました。



到着した大瀬崎海水浴場は、ここ最近で一番綺麗な海の状態だったそうです。海水は透明度が抜群で、小さな魚たちが泳いでいるのがはっきりと見えました。子どもたちは海に足を踏み入れた瞬間から大興奮！「魚がいる！」「こっち見て！」と無邪気な声が響きます。小さな魚の群れを発見するたびに、子どもたちのテンションはどんどん上がっていき、見ているうちに、私も気がつくと子どもたちと一緒に海に飛び込んでいました。大人も子どもも関係なく、みんなで魚を追いかけたり波と戯れたり。久しぶりに心の底から楽しむことができました。夜はキャンプファイヤーを囲んで特別な時間を過ごし、長泉リーダー



到着した大瀬崎海水浴場は、ここ最近で一番綺麗な海の状態だったそうです。海水は透明度が抜群で、小さな魚たちが泳いでいるのがはっきりと見えました。子どもたちは海に足を踏み入れた瞬間から大興奮！「魚がいる！」「こっち見て！」と無邪気な声が響きます。小さな魚の群れを発見するたびに、子どもたちのテンションはどんどん上がっていき、見ているうちに、私も気がつくと子どもたちと一緒に海に飛び込んでいました。大人も子どもも関係なく、みんなで魚を追いかけたり波と戯れたり。久しぶりに心の底から楽しむことができました。夜はキャンプファイヤーを囲んで特別な時間を過ごし、長泉リーダー

ズの中高生との交流をしました。長泉リーダーズとの交流は今年が最後ということで、子どもたちも力の入った『信濃の国』を歌っていました。そして最後は花火を楽しんで1日目が終了しました。



2日目は朝食と宿舎の清掃、挨拶を済ませた後、富士登山に出発しました。子どもたちは最初こそ



「疲れた〜」「まだ着かないの?」と言っていました。宝永噴火口に到着すると、その迫力ある景色に圧倒されていました。噴火口を見下ろしながらみんなでお弁当を食べ、集合写真を撮りました。疲れも忘れた子どもたちの達成感に満ちた笑顔、清々しい表情が印象的で、きっと一生の思い出になる一枚が撮れました。

下山後は朝霧高原でお土産購入タイム。子どもたちは家族へのプレゼントを真剣に選んでいて、「お母さんにはこれがいいかな」「弟にも何か買ってあげたい」と、家族一人一人のことを思い浮かべながら悩む姿に、子どもたちの優しい気持ちが伝わってきました。教育長が「富士登山が終わったらソフトクリームだな」と言って皆を奮い立たせていたので、子どもたちがとても美味しそうに食べているのを見ると「よく頑張ったね」といった気持ちにさせられました。帰りのバスでは、子どもたちが今回の感想を一人ずつ発表してくれました。私はその場にはいれなかったのですが、素直で素敵な感想が沢山あったのだと思います。

この2日間を通して、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができ、私自身も童心に帰って心から楽しむことができました。都市部では体験できない豊かな自然との触れ合い、仲間との絆を深める貴重な時間、そして何よりも子どもたちの純粋な喜びや驚き、成長の瞬間を間近で感じることができたこの長泉サマーキャンプは、私にとっても子どもたちにとっても、一生忘れることのない夏の宝物となりました。最高の2日間でした。

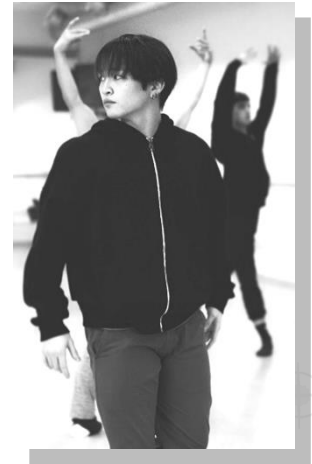
最後になりますが、バスの運転手さんをはじめ、米山教頭先生、看護師の本保さん、長泉町の多くの関係者のおかげで無事に長泉町サマーキャンプを終わ



らせることができました。そして、快く子どもたちを送り出してくださった保護者の皆様にも心より感謝いたします。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。



バレエダンサー 下形亮人さん



今所属している劇場は、エストニア（ヨーロッパ北東部）ヴァネムイネバレエ団で、そこはオペラ部門、オーケストラ部門、バレエ部門があり、自分たちのバレエ公演には所属のオーケストラ部門が演奏してくれます。劇場の日本人は、ルームメイトの男性3人と、現地で結婚して子どもがいる女性2人合わせて5人です。海外のどこの劇場にも日本人は何人かいます。

♪現在の生活♪

8時30分起床、10時には仕事場である劇場に到着して、シャワー、朝食の後、11時30分頃までトレーニングや基礎練習をします。11時45分～14時 次回公演のリハーサル、14時～15時 ランチ、15時～19時 次回公演のリハーサル、という流れで一日が過ぎていきます。



帰宅後、夕食はルームメイトが作ってくれるので、自分は片付けを担当します。仕事は、火曜日～土曜日で、日、月曜日休み。国立劇場と違って公演数が多いほうではないですが、それでも月に7日間程の公演があります。エストニア首都のタリンやヨーロッパ海外ツアーで踊る事もあります。

♪バレエを始めたきっかけ♪

母親のお腹園に通っていたみようよ。」をきっかけに本で暮らして村に帰って来その間、火曜



にいる頃から姉の送迎で白鳥バレエ学しました。3歳頃、教室の森先生に「やっと誘われ、バレエシューズを貰ったの始めました。小学校に上がるまでは松いましたが、父親の職場の関係で青木で、高校卒業まで暮らしました。日以外週6日、松本（母の送迎）、長野（電車）、上田の教室に通っていました。

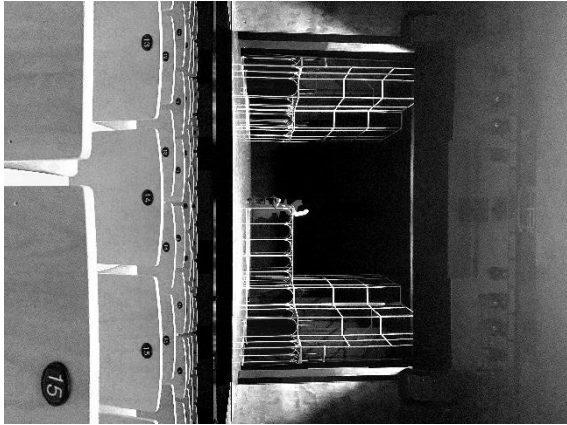


高校卒業後は、先輩方がそうしているように海外に留学しました。ベルギー王立バレエ学校に入学するつもりでしたが、オーディションの時に、プロ養成学校が新しくできると聞き、その方が自分に合っていると思い、ベルギーアントワープジュニアバレエ団に入り、そこで4年間勉強しました。その後はず

っと今のバレエ団で踊っています。共通言語は英語で、最初は全然喋れませんでした。自然と覚えることができました。



♪ これからの目標 ♪



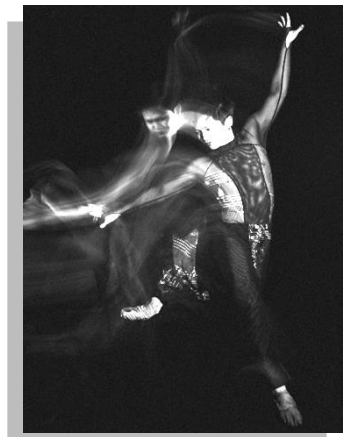
バレエと人生を共にしているので、ずっと続けていきたいと思っています。子どもの頃、舞台上で踊った時に拍手をもらったことが嬉しかったです。今も舞台上に立って照明を浴びて踊っている時が一番幸せです。日本に帰国したら、どこかのバレエ団に入り、40歳手前ぐらいまでは現役で踊りたいと思っています。その後は、指導者や振付師などのバレエに関係する仕事をして、日本への恩返しがしたいです。

♪ 休みの日は何をしていますか ♪

ゲームが大好きなので一日中やっている事もあります。後は体を休めていることが多いです。

♪ エストニアでの食事 ♪

主食はジャガイモです。好きな食べ物は、名前は分かりませんが、クリームソース、チーズ、ベーコンを甘くないクレープ生地で包んである料理です。毎日食べているのは、「すしライス」という名前のお米が売っているので、それを炊飯器で炊いて食べています。あまり美味しくないですが・・・



♪ 青木の子どもたちに一言 ♪

自分でも思っていなかったような事が、諦めず努力し続けていれば夢は叶う。頑張れば何でも出来る。子どもたちは無限の可能性があるので頑張って欲しい。



編集後記

<訂正の連絡>

先月号（第 237 号）の記述に誤りがありましたので、次のように訂正します。子供安全自転車大会の全国大会は、8月6日（水）に開かれました。また、村長さんのご厚意で、村から、当日使用と同じメーカーの自転車を購入してもらいました。東京大会の日にちと、自転車購入の経緯について訂正いたします。

今年も「長泉サマーキャンプ」が開催されてよかったですね。充実した夏休みになったでしょうか。夏休み明けは、子どもの不安が高まる時ですので、異変を見逃さず寄り添う心を持ちたいですね。

